あっぱれ

第１７号

編集・発行
顧問 中村　悠太

自立へ向けて…

秋季大会後の初戦は練習試合となりました。今回のテーマは「自立」と「全員一丸となって攻撃する」ことでした。秋季大会を経験したことでプレーの幅が広がり、様々な動きに対応することができるようになりました。当たり前のようにヒットを打ち、守備ではゴロを捕球し、フライアウトもとれるようになりました。チームが次の段階にいくときに乗り越えなければいけない壁があります。それは攻守ともに淡白になりやすいということです。良くも悪くもプレー自体が軽くなり、一球の大切さ、ヒット打ったときやアウトを取ったときの喜びを感じなくなります。我々のチームはヒットを打ってベンチに座ったまま拍手をするようなチームにはならないでください。ヒットを打って当たり前、一つのアウトをとることは簡単というような考え方はやめてください。仲間がエラーをして悔しがっている、気持ちが落ちているときはそれを察し、同じように悔しがってから励ましてあげてください。仲間がヒットを打ったときにはベンチを飛び出すようなほど一緒によろこんでください。どのような状況においてもこれができるようになればチームは更に強くなります。「打てるよー」と声をかけていますがそこに思いはありますか。○○、頑張れ、頼む、打ってくれ、誰に対しても同じような声掛けでもそこに思いがないとその人には届きません。「打ってくれ」「任せろ」そんなことを思いながらバッターボックスに入れるチームになりましょう。常に心が繋がっていると良いですね。私も含めグラウンドにいる全員がそのように思えるようになったとき真の強さが手に入ります。

一心同体～全員野球～

陵南戦小言

ベンチワークができていません。少ない人数ではありますがもう一度組織的に動けるようになってください。

イニング間の集合が選手主体になりました。Ｙを中心にイニングごとに感じたこと、確認事項、どのように攻撃、守備をするかを話し合おう。先輩、後輩に関わらず意見がある者は必ず発言しよう。

相手ピッチャーの特徴を良く見て、狙い球、どのような変化球があるのか等チーム内でどんどん話し合いこうしようと決めたことは徹底しよう。

【感動した話】
先日の１分間スピーチで１年生のＹが野球部に入部した理由に２年生Ｙのおかげだという話をしていました。「チームに入りたくても入れなかった初心者のぼくにいろいろ教えてくれたり面倒を見てくれたりした。たまにけんかをしても野球をやって良かったと思わせてくれるきっかけをくれた」と言っていました。この日、２年生のＹは欠席。私は休んでいる人のことを気にしないような人にならないでくれと奇しくもこの日のミーティングで伝えようとしていました。１年生Ｙがどのような意図でこの話題を出したのか定かではありませんがとても素晴らしいことだったので改めて通信に載せました。

今日の格言：今年は自分のためというより周りのためというのが強い／ダルビッシュ有